３休（年休･生休･連休）アンケート

調査結果

日本医労連　女性協議会

「３休（年休・生休・連休）アンケート」調査結果

日本医労連女性協議会では、継続的に 3 休（年休・生休・連休）（以下・3 休）を取ろうと呼びかけてきました。女性の多い医療や介護・福祉の現場では、母性保護問題は働き続ける上でも重要な課題となっています。そこで、医療や介護・福祉の現場ではたらく女性労働者の実態をつかむため、3 休アンケートに取り組みました。

Ⅰ、調査概要

1、調査目的：医療や介護・福祉の現場ではたらく女性労働者の実態をつかみ、その結果をもとに政府にも働きかけながら、母性保護拡充の運動につなげ、働き続けられる職場づくりに生かす。

２、調査期間： 2022 年 4 月～6 月 15 日

３、調査対象：全国の医労連加盟組織内にある、医療・介護・福祉職場で働く女性労働者

４、調査・集計方法：全国組合・都道府県医労連を通じて、加盟組合に調査票の送付と、グーグルフォームを活用して、回収・集計した。

５、調査事項： ①年休の取得状況　②生理休暇の取得状況　③連休の取得状況　④母性保護のため求められる休暇制度

６、集約結果：7 全国組合・29 県医労連（33 都道府県）、9155 人から集約した。

７、組織別回答数

全体	全医労	全厚労	全日赤	全JCHO	全労災	国共病組	公共労
9155	148	282	70	60	275	9	93
100.00%	1.62%	3.08%	0.76%	0.66%	3.00%	0.10%	1.02%

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京
1442	7	1549	463	538	1204	0	12	0	462	88	0	291
15.75%	0.08%	16.92%	5.06%	5.88%	13.15%	0.00%	0.13%	0.00%	5.05%	0.96%	0.00%	3.18%

神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都
1	175	0	117	26	0	193	0	0	0	0	2	93
0.01%	1.91%	0.00%	1.28%	0.28%	0.00%	2.11%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%	1.02%

大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知
3	0	0	0	0	132	861	191	0	2	1	15	0
0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.44%	9.40%	2.09%	0.00%	0.02%	0.01%	0.16%	0.00%

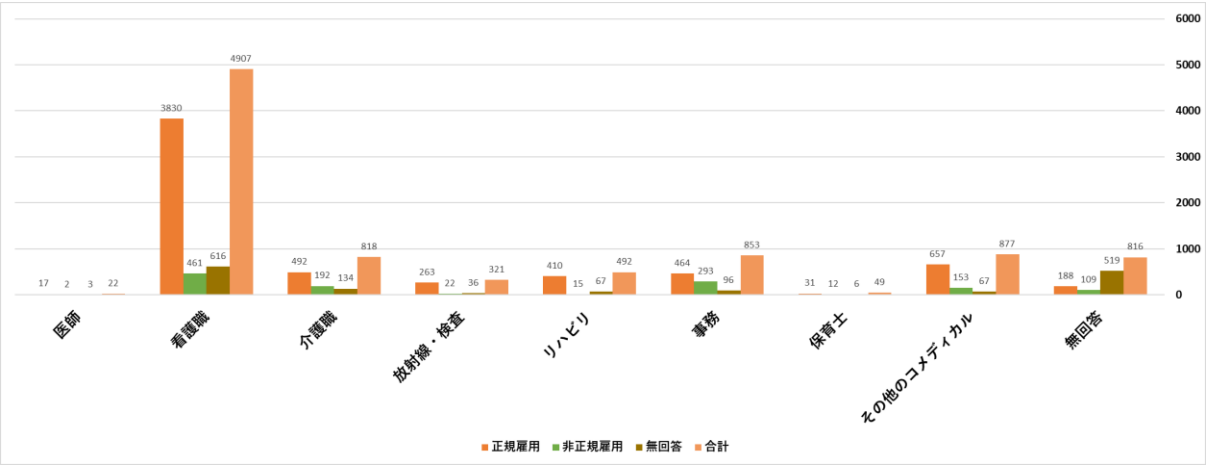
福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	無回答
29	0	97	121	13	0	88	0	0
0.32%	0.00%	1.06%	1.32%	0.14%	0.00%	0.96%	0.00%	0.00%

８、雇用形態別

上段：度数 下段：%	合計	正規雇用	非正規雇用	無回答
件数	9155	6352	1259	1544
全体	100.0%	69.4%	13.8%	16.9%

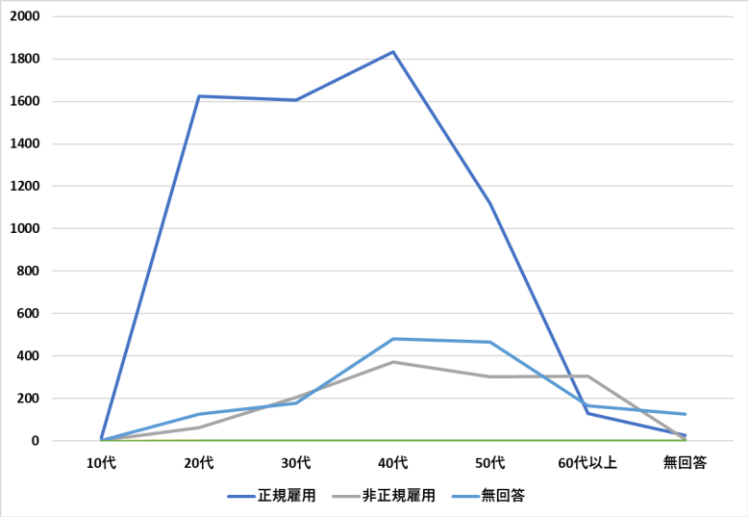
９、職種別

上段：度数 下段：%	医師	看護職	介護職	放射線・検査	リハビリ	事務	保育士	その他のコメディカル	無回答
正規雇用	17	3830	492	263	410	464	31	657	188
	0.3%	60.3%	7.7%	4.1%	6.5%	7.3%	0.5%	10.3%	3.0%
非正規雇用	2	461	192	22	15	293	12	153	109
	0.2%	36.6%	15.3%	1.7%	1.2%	23.3%	1.0%	12.2%	8.7%
無回答	3	616	134	36	67	96	6	67	519
	0.2%	39.9%	8.7%	2.3%	4.3%	6.2%	0.4%	4.3%	33.6%
合計	22	4907	818	321	492	853	49	877	816
	0.2%	53.6%	8.9%	3.5%	5.4%	9.3%	0.5%	9.6%	8.9%



10、年齢別

上段：度数 下段：%	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
正規雇用	14	1624	1605	1834	1117	131	27
	0.2%	25.6%	25.3%	28.9%	17.6%	2.1%	0.4%
非正規雇用	2	63	204	372	303	306	9
	0.2%	5.0%	16.2%	29.5%	24.1%	24.3%	0.7%
無回答	2	127	178	480	465	166	126
	0.1%	8.2%	11.5%	31.1%	30.1%	10.8%	8.2%
合計	18	1814	1987	2686	1885	603	162
	0.2%	19.8%	21.7%	29.3%	20.6%	6.6%	1.8%



Ⅱ、調査結果

1、年休の取得状況

（１）昨年度、年休をどれだけ取得したか

「6～10 日」3004 人・32.8%が一番多く、保育士以外の全ての職種で一番となっていた。次いで「11～15 日」1773 人・19.4%、「1～5 日」1489 人・16.3%、「16～20 日」1115 人・12.2%、「わからない」974 人・10.6%、「21 日以上」262 人・2.9%と続いた。中には、年休を１日も取得しなかった人も 83 人・0.9%いた。1 年間に発給された年休のほぼすべてを取得した人は、「16～21 日以上」で見る限り、15.1%と 2 割にも届かない状況となっている。

職種別でみると、「0 日～5 日」では、介護職が 26.1%と 4 人に１人となり、看護職では 17.4%と約 2 割であった。

「その他」187 人・2.0%の自由記載には、「年休って何ですか」「自分の意志では取れない」「年休の申請を出しているのに勝手に公休にかえられる」などの記述があった。

上段：度数 下段：%	①0日	②1～5日	③6～10日	④11～15日	⑤16～20日	⑥21日以上	⑦年休はない（勤続6ヶ月未満）	⑧わからない	⑨その他	無回答	合計
正規雇用	38	1009	2101	1238	713	184	96	753	157	63	6352
	0.6%	15.9%	33.1%	19.5%	11.2%	2.9%	1.5%	11.9%	2.5%	1.0%	100.0%
非正規雇用	30	187	379	267	197	32	39	96	14	18	1259
	2.4%	14.9%	30.1%	21.2%	15.6%	2.5%	3.1%	7.6%	1.1%	1.4%	100.0%
無回答	15	293	524	268	205	46	8	125	16	44	1544
	1.0%	19.0%	33.9%	17.4%	13.3%	3.0%	0.5%	8.1%	1.0%	2.8%	100.0%
合計	83	1489	3004	1773	1115	262	143	974	187	125	9155
	0.9%	16.3%	32.8%	19.4%	12.2%	2.9%	1.6%	10.6%	2.0%	1.4%	100.0%

上段：度数 下段：%	①0日	②1～5日	③6～10日	④11～15日	⑤16～20日	⑥21日以上	⑦年休はない（勤続6ヶ月未満）	⑧わからない	⑨その他	無回答	合計
医師	0	3	9	5	3	0	0	2	0	0	22
	0.0%	13.6%	40.9%	22.7%	13.6%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
看護職	39	816	1594	903	530	130	69	641	123	62	4907
	0.8%	16.6%	32.5%	18.4%	10.8%	2.6%	1.4%	13.1%	2.5%	1.3%	100.0%
介護職	15	199	234	122	81	26	16	103	9	13	818
	1.8%	24.3%	28.6%	14.9%	9.9%	3.2%	2.0%	12.6%	1.1%	1.6%	100.0%
放射線・検査	0	46	106	68	54	9	10	19	7	2	321
	0.0%	14.3%	33.0%	21.2%	16.8%	2.8%	3.1%	5.9%	2.2%	0.6%	100.0%
リハビリ	4	46	162	118	81	22	6	36	14	3	492
	0.8%	9.3%	32.9%	24.0%	16.5%	4.5%	1.2%	7.3%	2.8%	0.6%	100.0%
事務	8	117	299	187	141	22	11	38	19	11	853
	0.9%	13.7%	35.1%	21.9%	16.5%	2.6%	1.3%	4.5%	2.2%	1.3%	100.0%
保育士	0	7	14	15	8	0	2	2	1	0	49
	0.0%	14.3%	28.6%	30.6%	16.3%	0.0%	4.1%	4.1%	2.0%	0.0%	100.0%
その他のコメディカル	7	123	317	197	109	29	22	60	8	5	877
	0.8%	14.0%	36.1%	22.5%	12.4%	3.3%	2.5%	6.8%	0.9%	0.6%	100.0%
無回答	10	132	269	158	108	24	7	73	6	29	816
	1.2%	16.2%	33.0%	19.4%	13.2%	2.9%	0.9%	8.9%	0.7%	3.6%	100.0%
合計	83	1489	3004	1773	1115	262	143	974	187	125	9155
	0.9%	16.3%	32.8%	19.4%	12.2%	2.9%	1.6%	10.6%	2.0%	1.4%	100.0%

（２）年休は主に何に使うか（複数回答）

「休養」4,991 人・54.5%、「子どもの関連行事」2940 人・32.1%、「自分の病気・通院」2666 人・29.1%、「旅行・趣味」2251 人・24.6%、「家族の病気・通院」2158 人・23.6%の順となっている。2020 年 4 月に全労連女性部が調査した「女性労働者の労働実態（医労連抽出分）」（以下・全労連女性部調査）の調査結果では、「趣味・旅行」は、全体の第 2 位となっていた。それから 2 年後の今回の調査では、第 4 位まで落ち込んでいる。これは新型コロナの影響による自粛と、医療や介護・福祉労働者にいまだにかけられ続けている行動制限が大きく影響していると推測できる。

雇用形態別で比較すると、「旅行・趣味」については、正規が 27.2%で 4 位であるのに対し、非正規では 18.8%と 5 位に位置し、2 割にも満たない状況となっている。背景には経済的理由もあると推測できる。その一方で、非正規は、子どもの関連や家族および自分の病気・通院について、すべてが 3 割を超え、正規よりも高い数値になっている。

年代別に見ると、「40 代」以外は「休養」がトップで、その「40 代」は「子ども関連の行事」に年休を多く使っていることがわかる。2 位を比較すると、「10 代」「20 代」は「旅行・趣味」が入り、「30 代」は「子ども関連の行事」、「40 代」は「休養」、「50 代」「60 代」は「自分の病気・通院」となっている。全体的にみて、若年層は趣味や体を休めることに使い、子育て世代は、子どもを最優先していることが読み取れる。

上段：度数 下段：%	①休養	②旅行・趣味	③子ども関連の行事	④自分の病気・通院	⑤家族の病気・通院	⑥その他	無回答
正規雇用（6352人）	3646	1728	1975	1784	1353	503	114
	57.4%	27.2%	31.1%	28.1%	21.3%	7.9%	1.8%
非正規雇用（1259人）	577	237	479	416	407	77	32
	45.8%	18.8%	38.0%	33.0%	32.3%	6.1%	2.5%
無回答（1544人）	768	286	486	466	398	100	69
	49.7%	18.5%	31.5%	30.2%	25.8%	6.5%	4.5%
合計（9155人）	4991	2251	2940	2666	2158	680	215
	54.5%	24.6%	32.1%	29.1%	23.6%	7.4%	2.3%

※率は有効回答数に対する割合

上段：度数 下段：%	①休養	②旅行・趣味	③子ども関連の行事	④自分の病気・通院	⑤家族の病気・通院	⑥その他	無回答
10代(18人)	13	5	0	2	0	2	3
	72.2%	27.8%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	16.7%
20代（1814人）	1320	847	76	421	122	111	52
	72.8%	46.7%	4.2%	23.2%	6.7%	6.1%	2.9%
30代（1987人）	983	439	892	570	541	148	33
	49.5%	22.1%	44.9%	28.7%	27.2%	7.4%	1.7%
40代（2686人）	1186	442	1514	760	707	181	42
	44.2%	16.5%	56.4%	28.3%	26.3%	6.7%	1.6%
50代（1885人）	1072	368	381	651	567	168	46
	56.9%	19.5%	20.2%	34.5%	30.1%	8.9%	2.4%
60代以上（603人）	351	119	25	217	176	59	26
	58.2%	19.7%	4.1%	36.0%	29.2%	9.8%	4.3%
無回答（162人）	66	31	52	45	45	11	13
	40.7%	19.1%	32.1%	27.8%	27.8%	6.8%	8.0%
合計	4991	2251	2940	2666	2158	680	215
	54.5%	24.6%	32.1%	29.1%	23.6%	7.4%	2.3%

※率は有効回答数に対する割合

（３）年休を取得しなかった（できなかった）理由　（3 つまで回答可）

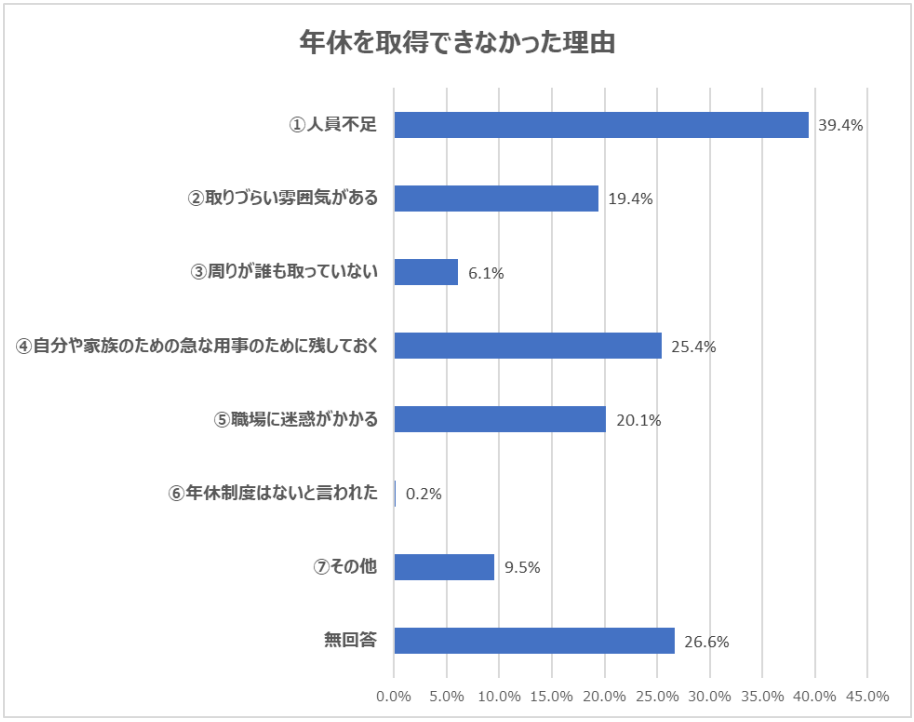
「人員不足」が 3605 人・39.4%とトップ、次いで「自分や家族のための急な用事のために残しておく」2325 人・25.4%、「職場に迷惑がかかる」1842 人・20.1%、「取りづらい雰囲気がある」1776 人・19.4%、「周りが誰も取っていない」555 人・6.1%の順となっている。雇用形態別でみると、正規では「人員不足」と回答した人が 42.7%と 4 割を超え、非正規の 2 倍となった。一方、非正規は「自分や家族のための急な用事のために残しておく」がトップで 30.7%と 3 割を超えた。

職種別でみると、「人員不足」をトップに回答した職種は、「看護職」46.0%、「介護職」32.6%、「放射線・検査」41.7%、「その他コメディカル」31.7%であった。看護職や検査・放射線技師については、4 割を超えて人員不足と回答している。

「その他」の自由記載には、「希望しても年休をつけてくれない」「人員不足だからダメと言われた」「コロナでどこにも行けない」「年休は上司が決める」「１人職場なので、自分が休むと自分の仕事が増えるだけ」などの記述があった。

上段：度数 下段：%	①人員不足	②取りづらい雰囲気がある	③周りが誰も取っていない	④自分や家族のための急な用事の	⑤職場に迷惑がかかる	⑥年休制度はないと言われた	⑦その他	無回答
正規雇用（6352人）	2714	1355	426	1594	1345	6	671	1465
	42.7%	21.3%	6.7%	25.1%	21.2%	0.1%	10.6%	23.1%
非正規雇用（1259人）	276	108	29	386	195	4	80	538
	21.9%	8.6%	2.3%	30.7%	15.5%	0.3%	6.4%	42.7%
無回答（1544人）	615	313	100	345	302	5	121	436
	39.8%	20.3%	6.5%	22.3%	19.6%	0.3%	7.8%	28.2%
合計（9155人）	3605	1776	555	2325	1842	15	872	2439
	39.4%	19.4%	6.1%	25.4%	20.1%	0.2%	9.5%	26.6%

※率は有効回答数に対する割合



上段：度数 下段：%	①人員不足	②取りづらい雰囲気がある	③周りが誰も取っていない	④自分や家族のための急な用事のために残しておく	⑤職場に迷惑がかかる	⑥年休制度はないと言われた	⑦その他	無回答
医師（22人）	5	3	1	9	5	0	3	6
	22.7%	13.6%	4.5%	40.9%	22.7%	0.0%	13.6%	27.3%
看護職（4907人）	2257	1165	394	1153	1014	10	497	1070
	46.0%	23.7%	8.0%	23.5%	20.7%	0.2%	10.1%	21.8%
介護職（818人）	267	121	48	184	123	1	65	316
	32.6%	14.8%	5.9%	22.5%	15.0%	0.1%	7.9%	38.6%
放射線・検査（321人）	134	52	12	103	59	0	18	81
	41.7%	16.2%	3.7%	32.1%	18.4%	0.0%	5.6%	25.2%
リハビリ（492人）	121	73	11	184	126	0	52	125
	24.6%	14.8%	2.2%	37.4%	25.6%	0.0%	10.6%	25.4%
事務（853人）	222	96	17	228	155	1	98	310
	26.0%	11.3%	2.0%	26.7%	18.2%	0.1%	11.5%	36.3%
保育士（49人）	13	6	3	16	6	0	6	14
	26.5%	12.2%	6.1%	32.7%	12.2%	0.0%	12.2%	28.6%
その他のコメディカル（877人）	278	117	38	257	204	2	76	255
	31.7%	13.3%	4.3%	29.3%	23.3%	0.2%	8.7%	29.1%
無回答（816人）	308	143	31	191	150	1	57	262
	37.7%	17.5%	3.8%	23.4%	18.4%	0.1%	7.0%	32.1%
合計（9155人）	3605	1776	555	2325	1842	15	872	2439
	39.4%	19.4%	6.1%	25.4%	20.1%	0.2%	9.5%	26.6%

※率は有効回答数に対する割合

（４）仕事に付随して（夜勤等）年休を使った（使われた）ことがあるか

「ある」と回答した人は、1647 人・18.0%、「ない」4816 人・52.6%、「わからない」2362 人・25.8%であった。「ある」と回答した人を雇用形態別でみると、正規では 20.4%、非正規では 6.6%と大きなひらきがあった。職種別でみると、「医師」31.8%で約 3 人に 1 人、「看護職」24.8%で 4 人に 1 人となっている。

上段：度数 下段：%	①ある	②ない	③わからない	無回答	合計
正規雇用	1296	3140	1769	147	6352
	20.4%	49.4%	27.8%	2.3%	100.0%
非正規雇用	83	873	216	87	1259
	6.6%	69.3%	17.2%	6.9%	100.0%
無回答	268	803	377	96	1544
	17.4%	52.0%	24.4%	6.2%	100.0%
合計	1647	4816	2362	330	9155
	18.0%	52.6%	25.8%	3.6%	100.0%

上段：度数 下段：%	①ある	②ない	③わからない	無回答	合計
医師	7	11	3	1	22
	31.8%	50.0%	13.6%	4.5%	100.0%
看護職	1215	2136	1451	105	4907
	24.8%	43.5%	29.6%	2.1%	100.0%
介護職	82	449	236	51	818
	10.0%	54.9%	28.9%	6.2%	100.0%
放射線・検査	46	213	58	4	321
	14.3%	66.4%	18.1%	1.2%	100.0%
リハビリ	29	372	84	7	492
	5.9%	75.6%	17.1%	1.4%	100.0%
事務	41	630	140	42	853
	4.8%	73.9%	16.4%	4.9%	100.0%
保育士	8	31	7	3	49
	16.3%	63.3%	14.3%	6.1%	100.0%
その他のコメディカル	89	551	195	42	877
	10.1%	62.8%	22.2%	4.8%	100.0%
無回答	130	423	188	75	816
	15.9%	51.8%	23.0%	9.2%	100.0%
合計	1647	4816	2362	330	9155
	18.0%	52.6%	25.8%	3.6%	100.0%

（５）「ある」と回答した方でどのような形で年休を使ったのか（使われたのか）

「夜勤明けに年休」「当直後に年休」「希望していないがシフトで勝手に年休つけられた」「研修参加のため」「夜勤前の半日休みに有給があてられている」「人員の余裕があるからと有休を取る様に言われた」との記述があった。自らの意思や勤務希望とは関係なく、年休が消化されている実態があった。

２、生理休暇の取得状況

（１）生理休暇の取得状況

「毎潮時取っている」369 人・4.0%、「時々取っている」304 人・3.3%、「取っていない」7573 人・82.7%となった。「毎潮時取っている」と「時々取っている」を合わせても、673 人・7.3%で１割にも満たなかった。

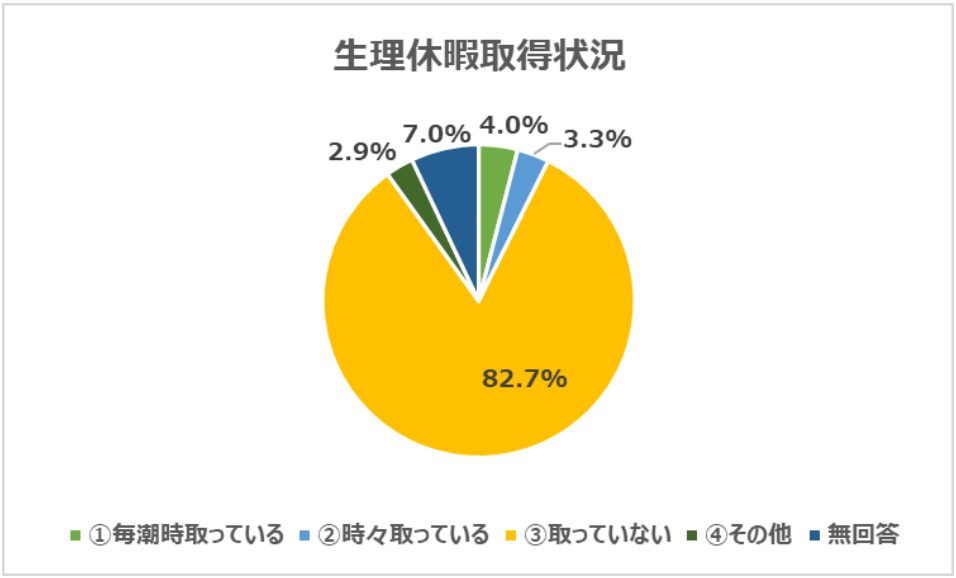
また雇用形態別では、「取っていない」と回答した正規は 85.4%、非正規は 73.4%であ

った。

職種別でみると、「取っていない」と回答した「医師」は 18 人・81.8%、「看護職」は、4225 人・86.1%、「介護職」623 人・76.2%、「放射線・検査」272 人・84.7%、「リハビリ」363 人・73.8%、「事務」670 人・78.5%、「保育士」34 人・69.4%、「その他のコメディカル」721 人・82.2%、「無回答」647 人・79.3%であった。

全体の「取っていない」と回答した 82.7%を超えた職種は、「看護職」と「放射線・検査」であった。

上段：度数 下段：%	①毎潮時取っている	②時々取っている	③取っていない	④その他	無回答	合計
正規雇用	290	243	5426	154	239	6352
	4.6%	3.8%	85.4%	2.4%	3.8%	100.0%
非正規雇用	50	26	924	56	203	1259
	4.0%	2.1%	73.4%	4.4%	16.1%	100.0%
無回答	29	35	1223	55	202	1544
	1.9%	2.3%	79.2%	3.6%	13.1%	100.0%
合計	369	304	7573	265	644	9155
	4.0%	3.3%	82.7%	2.9%	7.0%	100.0%



上段：度数 下段：%	①毎潮時取っている	②時々取っている	③取っていない	④その他	無回答	合計
医師	0	2	18	0	2	22
	0.0%	9.1%	81.8%	0.0%	9.1%	100.0%
看護職	167	105	4225	135	275	4907
	3.4%	2.1%	86.1%	2.8%	5.6%	100.0%
介護職	37	25	623	27	106	818
	4.5%	3.1%	76.2%	3.3%	13.0%	100.0%
放射線・検査	11	6	272	12	20	321
	3.4%	1.9%	84.7%	3.7%	6.2%	100.0%
リハビリ	42	63	363	12	12	492
	8.5%	12.8%	73.8%	2.4%	2.4%	100.0%
事務	50	43	670	35	55	853
	5.9%	5.0%	78.5%	4.1%	6.4%	100.0%
保育士	3	6	34	3	3	49
	6.1%	12.2%	69.4%	6.1%	6.1%	100.0%
その他のコメディカル	50	36	721	20	50	877
	5.7%	4.1%	82.2%	2.3%	5.7%	100.0%
無回答	9	18	647	21	121	816
	1.1%	2.2%	79.3%	2.6%	14.8%	100.0%
合計	369	304	7573	265	644	9155
	4.0%	3.3%	82.7%	2.9%	7.0%	100.0%

（２）生理休暇を「取っていない」と回答した人のうち、「取っていない理由」（複数回答）

「取っていない」と回答した 7573 人のうち、「周りが誰も取っていない」が 3321 人・43.9%、「必要ない」2450 人・32.4%、「仕事が多忙で雰囲気としてとりづらい」2103 人・27.8%、「人員不足」1421 人・18.8%、「上司に言いづらい」1399 人・18.5%の順となった。また、「制度があることを知らなかった」848 人・11.2%、「生理休暇制度はないと言われた」152 人・2.0%もあった。特に非正規では、「制度があることを知らなかった」「生理休暇制度はないと言われた」は正規を上回った。

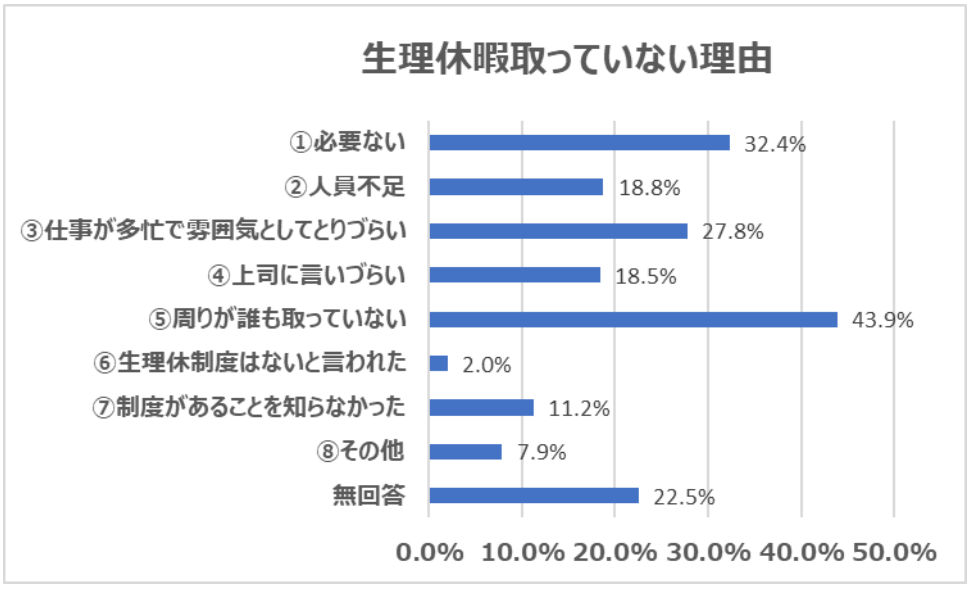
職種別でみると、「周りが誰も取っていない」は「看護職」で 49.5%、「放射線・検査」で 46.0%と約 5 割となった。「仕事が多忙で雰囲気としてとりづらい」は、「看護職」で 33.3%と 3 割を超え、「人員不足」についても、22.9%と 1 職種のみ 2 割を超えた。

自由記載には、「説明なし。制度を知らなかった」「生理休暇はなくなった」「パートだか

らない」「取得できる契約でない」「制度がない」「取らせてくれない」「生理の突発休は勤務上とりにくい」「上司が男性だから言いづらい」「取得に値する辛さがわからない」「名称が申請しにくく年休で申請」「無給だから」「痛み止めを飲めば働ける」など様々な回答が寄せられていたが、制度についての学習と周知の必要性を強く感じるものとなった。

上段：度数 下段：%	①必要ない	②人員不足	③仕事が多忙で雰囲気としてとりづらい	④上司に言いづらい	⑤周りが誰も取っていない	⑥生理休制度はないと言われた	⑦制度があることを知らなかった	⑧その他	無回答
正規雇用 (5426人)	1660	1115	1665	1101	2571	81	582	413	971
	30.6%	20.5%	30.7%	20.3%	47.4%	1.5%	10.7%	7.6%	17.9%
非正規雇用 （924人）	360	94	121	95	274	42	163	98	374
	39.0%	10.2%	13.1%	10.3%	29.7%	4.5%	17.6%	10.6%	40.5%
無回答 （1223人）	430	212	317	203	476	29	103	84	359
	35.2%	17.3%	25.9%	16.6%	38.9%	2.4%	8.4%	6.9%	29.4%
合計 （7573人）	2450	1421	2103	1399	3321	152	848	595	1704
	32.4%	18.8%	27.8%	18.5%	43.9%	2.0%	11.2%	7.9%	22.5%

※率は有効回答数に対する割合



上段：度数 下段：%	①必要ない	②人員不足	③仕事が多忙で雰囲気としてとりづらい	④上司に言いづらい	⑤周りが誰も取っていない	⑥生理休制度はないと言われた	⑦制度があることを知らなかった	⑧その他	無回答
医師（18人）	6	1	2	2	6	1	2	4	3
	33.3%	5.6%	11.1%	11.1%	33.3%	5.6%	11.1%	22.2%	16.7%
看護職（4225人）	1263	969	1406	794	2091	70	447	295	725
	29.9%	22.9%	33.3%	18.8%	49.5%	1.7%	10.6%	7.0%	17.2%
介護職（623人）	236	86	150	86	234	11	78	60	202
	37.9%	13.8%	24.1%	13.8%	37.6%	1.8%	12.5%	9.6%	32.4%
放射線・検査（272人）	88	50	59	67	125	6	26	24	54
	32.4%	18.4%	21.7%	24.6%	46.0%	2.2%	9.6%	8.8%	19.9%
リハビリ（363人）	108	37	89	94	134	7	61	33	126
	29.8%	10.2%	24.5%	25.9%	36.9%	1.9%	16.8%	9.1%	34.7%
事務（670人）	247	78	112	134	219	22	82	69	200
	36.9%	11.6%	16.7%	20.0%	32.7%	3.3%	12.2%	10.3%	29.9%
保育士（34人）	12	3	6	4	10	1	4	5	16
	35.3%	8.8%	17.6%	11.8%	29.4%	2.9%	11.8%	14.7%	47.1%
その他のコメディカル（721人）	263	99	137	117	278	17	80	69	174
	36.5%	13.7%	19.0%	16.2%	38.6%	2.4%	11.1%	9.6%	24.1%
無回答（647人）	227	98	142	101	224	17	68	36	204
	35.1%	15.1%	21.9%	15.6%	34.6%	2.6%	10.5%	5.6%	31.5%
合計（7573人）	2450	1421	2103	1399	3321	152	848	595	1704
	32.4%	18.8%	27.8%	18.5%	43.9%	2.0%	11.2%	7.9%	22.5%

※率は有効回答数に対する割合

（３）「月経に関する不調」について、

月経に関する不調（複数回答）として、「月経痛（腰痛・腹痛・頭痛等）あり」5444 人・59.5%、「月経による体調不良・精神不安あり」3096 人・33.8%、「月経の不調（月経前症候群 PMS）あり」2902 人・31.7%、「月経不順あり」1519 人・16.6%であった。「月経にかかわる不調はない」と「無月経（3 ヵ月以上停止・閉経等）」を合わせると、1824 人・19.9%であった。

職種別の特徴として、リハビリについては、「月経の不調」ありの全ての項目で、トップとなっており、多くの職員が複数の不調を抱えながら勤務している状況がうかがえる。

「その他」の自由記載には、「多量出血でパンツ（ズボン）までもれる事もある」「気分が落ち込む」「ピル内服」などがあった。

上段：度数 下段：%	①月経痛（腰痛・腹痛・頭痛等）あり	②月経による体調不良・精神不安あり	③月経前の不調（月経前症候群PMS）あり	④月経不順あり	⑤月経にかかわる不調はない	⑥無月経（３ヶ月以上停止・閉経等）	⑦その他	無回答
正規雇用（6352人）	4175	2382	2272	1160	436	666	135	408
	65.7%	37.5%	35.8%	18.3%	6.9%	10.5%	2.1%	6.4%
非正規雇用（1259人）	543	305	286	162	90	280	32	250
	43.1%	24.2%	22.7%	12.9%	7.1%	22.2%	2.5%	19.9%
無回答（1544人）	726	409	344	197	110	242	30	320
	47.0%	26.5%	22.3%	12.8%	7.1%	15.7%	1.9%	20.7%
合計（9155人）	5444	3096	2902	1519	636	1188	197	978
	59.5%	33.8%	31.7%	16.6%	6.9%	13.0%	2.2%	10.7%

※率は有効回答数に対する割合

上段：度数 下段：%	①月経痛（腰痛・腹痛・頭痛等）あり	②月経による体調不良・精神不安あり	③月経前の不調（月経前症候群PMS）あり	④月経不順あり	⑤月経にかかわる不調はない	⑥無月経（３ヶ月以上停止・閉経等）	⑦その他	無回答
医師（２２人）	8	5	5	2	3	4	1	2
	36.4%	22.7%	22.7%	9.1%	13.6%	18.2%	4.5%	9.1%
看護職（4907人）	3058	1715	1599	862	323	575	108	449
	62.3%	35.0%	32.6%	17.6%	6.6%	11.7%	2.2%	9.2%
介護職（818人）	379	226	208	130	62	168	21	145
	46.3%	27.6%	25.4%	15.9%	7.6%	20.5%	2.6%	17.7%
放射線・検査（321人）	205	108	107	51	24	43	5	21
	63.9%	33.6%	33.3%	15.9%	7.5%	13.4%	1.6%	6.5%
リハビリ（492人）	385	229	233	109	21	19	9	14
	78.3%	46.5%	47.4%	22.2%	4.3%	3.9%	1.8%	2.8%
事務（853人）	496	295	286	122	68	121	22	82
	58.1%	34.6%	33.5%	14.3%	8.0%	14.2%	2.6%	9.6%
保育士（49人）	29	18	11	7	3	5	2	5
	59.2%	36.7%	22.4%	14.3%	6.1%	10.2%	4.1%	10.2%
その他のコメディカル（877人）	524	311	295	148	68	117	14	70
	59.7%	35.5%	33.6%	16.9%	7.8%	13.3%	1.6%	8.0%
無回答（816人）	360	189	158	88	64	136	15	190
	44.1%	23.2%	19.4%	10.8%	7.8%	16.7%	1.8%	23.3%
合計（9155人）	5444	3096	2902	1519	636	1188	197	978
	59.5%	33.8%	31.7%	16.6%	6.9%	13.0%	2.2%	10.7%

※率は有効回答数に対する割合

（４）月経時（PMS 含）の鎮痛剤使用

無月経や無回答除いた 4774 人のうち、「毎潮時飲む」1720 人・36.0%、「ときどき飲む」

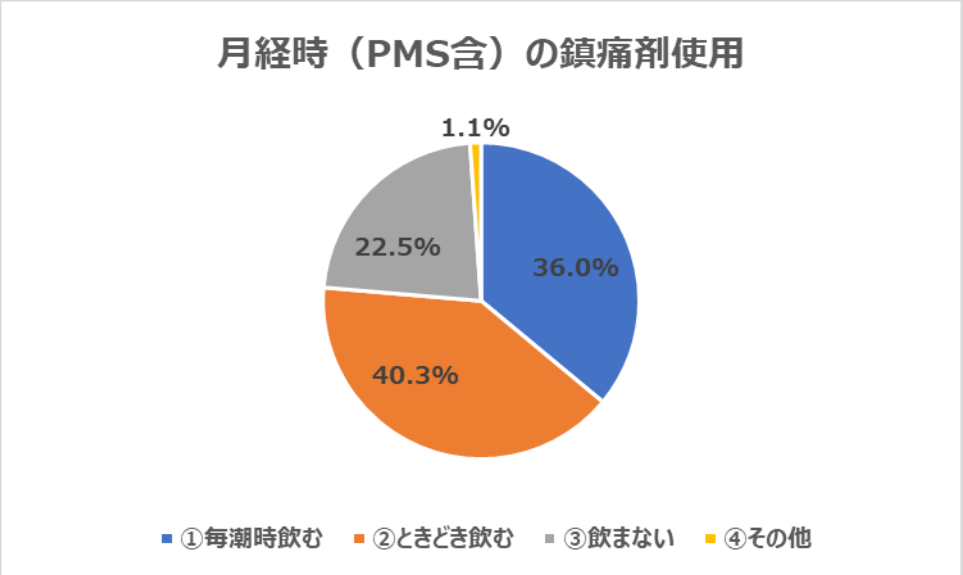
1925 人・40.3%、「飲まない」1075 人・22.5%であった。「毎潮時飲む」と「ときどき飲む」を合わせると 3645 人・76.3%であり、約 8 割の人が鎮痛剤を服用しなければならない状態にある。

正規では「毎朝時飲む」が 37.5%と約 4 割、「ときどき飲む」は 40.7%と 4 割を超えた。

職種別でみると、「毎潮時飲む」では、複数の不調が多かった「リハビリ」が 40.6%と 4 割を超えた。続いて「放射線・検査」が 39.5%、「看護職」が 37.6%であった。保育士以外の職種すべてが 3 割を超えている。

「その他」の自由記載には、「ピル服用」「辛すぎて婦人科受診ホルモン抑制剤使用」「治療で月経を止めている。そうしないと痛みが強い」などの記述もあり、そのように回答した人の多くは、生理休暇を取得していなかった。

上段：度数 下段：%	①毎潮時飲む	②ときどき飲む	③飲まない	④その他	合計
正規雇用	1370	1488	759	36	3653
	37.5%	40.7%	20.8%	1.0%	100.0%
非正規雇用	155	196	156	11	518
	29.9%	37.8%	30.1%	2.1%	100.0%
無回答	195	241	160	7	603
	32.3%	40.0%	26.5%	1.2%	100.0%
合計	1720	1925	1075	54	4774
	36.0%	40.3%	22.5%	1.1%	100.0%



上段：度数 下段：%	①毎潮時飲む	②ときどき飲む	③飲まない	④その他	合計
医師	4	5	4	0	13
	30.8%	38.5%	30.8%	0.0%	100.0%
看護職	1005	1131	510	28	2674
	37.6%	42.3%	19.1%	1.0%	100.0%
介護職	116	112	99	5	332
	34.9%	33.7%	29.8%	1.5%	100.0%
放射線・検査	73	69	41	2	185
	39.5%	37.3%	22.2%	1.1%	100.0%
リハビリ	126	108	73	3	310
	40.6%	34.8%	23.5%	1.0%	100.0%
事務	139	164	132	4	439
	31.7%	37.4%	30.1%	0.9%	100.0%
保育士	8	13	4	2	27
	29.6%	48.1%	14.8%	7.4%	100.0%
その他のコメディカル	148	198	125	10	481
	30.8%	41.2%	26.0%	2.1%	100.0%
無回答	101	125	87	0	313
	32.3%	39.9%	27.8%	0.0%	100.0%
合計	1720	1925	1075	54	4774
	36.0%	40.3%	22.5%	1.1%	100.0%

３、連休の取得状況について

（１）2022 年 3 月を基準に、連続 2 日以上の休みを何回取得したか

「1 ヶ月に 1 回取得」は 3050 人・33.3%、「１ヶ月に 2 回取得」は 2343 人・25.6%、「１ヶ月に 3 回取得」は 1481 人・16.2%、「取れない」1038 人・11.3%であった。

「1 ヶ月に 1 回取得」が一番多かった職種は、「医師」7 人・31.8%、「看護職」1962 人・40.0%、「介護職」266 人・32.5%、「事務」183 人・21.5%であり、看護職については 40.0%と 4 割を超えた。職種別に「取れない」と回答した中では、「事務」のみ 21.1%と 2 割を超え、「放射線・検査」については 18.7%にのぼった。

「その他」自由記載には、「2～3 ケ月に 1 回取れたらいい」「3 月はなかった」「連休は年に 1 回ぐらい。人数が少ないので数日休みを取ることに抵抗がある」との回答があった。

上段：度数 下段：%	①1ヶ月に1回取得	②1ヶ月に2回取得	③1ヶ月に3回以上取得	④取れない	⑤その他	無回答	合計
正規雇用	2293	1785	941	682	355	296	6352
	36.1%	28.1%	14.8%	10.7%	5.6%	4.7%	100.0%
非正規雇用	275	194	321	167	133	169	1259
	21.8%	15.4%	25.5%	13.3%	10.6%	13.4%	100.0%
無回答	482	364	219	189	78	212	1544
	31.2%	23.6%	14.2%	12.2%	5.1%	13.7%	100.0%
合計	3050	2343	1481	1038	566	677	9155
	33.3%	25.6%	16.2%	11.3%	6.2%	7.4%	100.0%

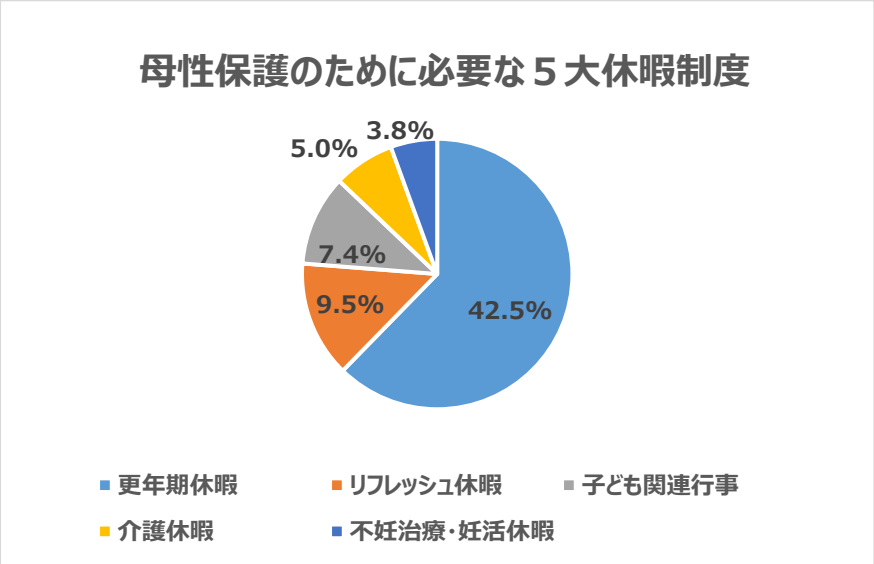
上段：度数 下段：%	①1ヶ月に1回取得	②1ヶ月に2回取得	③1ヶ月に3回以上取得	④取れない	⑤その他	無回答	合計
医師	7	7	0	3	4	1	22
	31.8%	31.8%	0.0%	13.6%	18.2%	4.5%	100.0%
看護職	1962	1307	652	415	279	292	4907
	40.0%	26.6%	13.3%	8.5%	5.7%	6.0%	100.0%
介護職	266	223	120	84	44	81	818
	32.5%	27.3%	14.7%	10.3%	5.4%	9.9%	100.0%
放射線・検査	74	85	62	60	22	18	321
	23.1%	26.5%	19.3%	18.7%	6.9%	5.6%	100.0%
リハビリ	110	141	140	43	35	23	492
	22.4%	28.7%	28.5%	8.7%	7.1%	4.7%	100.0%
事務	183	162	182	180	67	79	853
	21.5%	19.0%	21.3%	21.1%	7.9%	9.3%	100.0%
保育士	12	16	8	4	4	5	49
	24.5%	32.7%	16.3%	8.2%	8.2%	10.2%	100.0%
その他のコメディカル	191	212	205	150	66	53	877
	21.8%	24.2%	23.4%	17.1%	7.5%	6.0%	100.0%
無回答	245	190	112	99	45	125	816
	30.0%	23.3%	13.7%	12.1%	5.5%	15.3%	100.0%
合計	3050	2343	1481	1038	566	677	9155
	33.3%	25.6%	16.2%	11.3%	6.2%	7.4%	100.0%

４、母性保護のため、求められる休暇制度について

（１）３休以外に、必要だと思う休暇制度

母性保護のために必要な５大休暇制度

更年期休暇	1147	42.5%
リフレッシュ休暇	257	9.5%
子ども関連行事	199	7.4%
介護休暇	134	5.0%
不妊治療・妊活休暇	103	3.8%



年休・生休・連休の 3 休以外に特に必要だと思う休暇制度について、2701 人・29.5%が回答した。そのトップは、「更年期休暇」1147 人・42.5%であった。その理由として、「生理より辛く治療中」「生理休暇と同様に、女性の身体の変化に伴う休暇が必要」との意見や、若い世代からも、「更年期症状を見ていて辛そう」「休暇があれば安心できる」などの声があった。

第 2 位の「リフレッシュ休暇」については、「不規則な勤務で疲れてストレスが溜まる」「家族や子どものためではなく、自分のために使える休みがほしい」「まとまった休みでリフレッシュしたい」など、名称をつけて「連休を取りたい」という趣旨の意見が多かった。

第 3 位の「子どもに関連する休暇」については、「学校行事や春休み・夏休みなど子どもが休みの時期に合わせた休暇があるといい」とか、「子どもの里帰り出産にあたりサポートできる休暇がほしい」との意見があった。また、「子どもの看護のため」という回答も多くあった。「子の看護休暇」制度があっても、制度があることを知らない（知らされていない）現状もあることと同時に、「無給だから使えない」という意見もあり、非正規にとっては特にあっても使えない休暇制度となっていることが伺える。

第 4 位の「介護休暇」についても、制度はあるにも関わらず、回答が多い背景には、「制度が不十分。手続等で手間がかかる」「要介護にならなくても、高齢者は病院の送迎や付き添いなどが必要」との意見の他に、「介護については、女性の負担が大きい」との意見もあり、性別役割分業として女性に重くのしかかっていることがうかがえる。

第 5 位の「不妊治療・妊活休暇」については、「連日の通院が必要であり、排卵日にあわせて急に通院が必要となる。若いうちの成功率が高いが、言いだしづらい」との意見があった。

その他にも、生理休暇やつわり休暇、PMS 休暇、通院休暇、コロナ関連休暇などの意見があった。制度としてすでに存在する休暇があるにもかかわらず、求められる休暇制度としての回答も多く、あっても取りづらい、取れるものになっていないというのが実際の状況だと言える。

Ⅲ,結果の特徴と今後の課題

１、はじめに

日本医労連女性協議会の取り組みとして、毎年春と秋に母性保護月間を位置づけ、女性の権利を学びながら、「3 休（年休・生休・連休）取ろう」と呼びかけてきました。その実態をつかむべく今回初めて「3 休アンケート」に取り組みました。当初の予想をはるかに超えて 9155 人から回答を得ることができました。締め切りまで間に合わず、反映できなかったものも 196 人分ありました。

収束の兆しが見えないコロナ禍で、現場は人手不足に拍車がかかりひっ迫した状況の中での調査であったにもかかわらず、9000 を超える回答をいただいたことに心から感謝申し上げます。そして、それだけ、「職場の現状を知ってほしい」、「改善してほしい」との強い思いの表れであると感じています。

この結果を、職場の働きやすさに繋げると同時に、母性保護の権利拡充とさらなる制度の改善に活かしていきます。

２、人員不足は待ったなし　　権利を知って、知らせて、職場を変える運動を

本調査の集約の 5 割は看護師であり、現場の多忙な状況と人手不足がより顕著に表れる結果となりました。

年休については、全体の 5 割が 10 日以下の休みしか取得できておらず、法に触れる可能性のある 5 日以下の人は 17.2%にのぼりました。特に介護職においては、26.1%と 4 人 1 人が 5 日以下しか取得できておらず、年休を取得しなかった理由として「人手不足」と回答した人が 3 割を超えたことを裏付ける結果となっています。

看護職においては「0 日～5 日」は 17.4%と介護職よりも低い状況ではあるものの、仕事に付随して（夜勤等）年休を使った（使われた）ことがあるかの問いに対し、「ある」との回答が 24.8%（介護職は 10.0%）あり、4 人に 1 人が、自分の意思や希望とは別に年休を使っていることがうかがえます。自由記載には、「希望して取った年休は 1 日もなく、全て

病棟の都合や公休の不足分で使用された。捨てられるよりはマシ」との回答や、コロナ禍ならではの声として、「病棟でのコロナ感染発生時に、PCR 検査結果がでるまでの待機時間」や「コロナワクチン地域接種担当」など、業務保障されるべき内容のものまで年休扱いとされていました。

約半数の看護師が「人員不足」を理由に年休を取得しておらず、「人員不足」は他職種でもトップに上げられ、このコロナ禍でさらに拍車をかける事態となっています。

2019 年 4 月より、年次有給休暇の年 5 日以上の取得義務化がスタートしました。現場には希望を聞いて自由に年休を取得させる人的余裕がないことは本調査からも明らかです。それでも年 5 日は取得させなければならないとした状況が、「感染対策として年休を使う指示が出た」とか、「生理休暇は有休 5 日取得後から取るように言われた」「年休は勝手に消化されるもの」というような、幾重にも誤った付与につながっています。

年次有休休暇の目的は、働く人の心身のリフレッシュを図ることであり、原則として、労働者が請求する時季に与えることとされています。そして付与された年次有給休暇は、すべて取得されるべきものです。しかし、同僚への気兼ねや請求することへのためらい等の理由から、取得率が低調な現状にあり、取得促進が課題となっていたからこそスタートした「年 5 日以上の取得義務化」です。政府の数値目標でも、2025 年までに取得率 70%にするとしていますが、国民のいのちと健康を守る医療・介護現場では、安全が確保できない提供体制というのはありえず、それを維持するために、本来自由に取得できる「休むための権利」が奪われています。人員を増やす以外に政府目標をクリアすることはできず、権利を行使することもできません。

３、母性保護の拡充で、笑顔で働き続けられるために

労基法でも「生理休暇」は認められているにもかかわらず、「取っていない」と回答した人は 82.7%と 8 割を超えました。全労連女性部調査（医労連抽出分）時には、「取っていない」は 64.9%であったことを踏まえると、この 2 年で約 2 割も増えています。さらに鎮痛剤服用については、「毎潮時飲む」と「ときどき飲む」を合わせると 76.3%で、約 8 割の人が鎮痛剤を服用しており、ここについても全労連女性部調査（医労連抽出分）時の 62.5%と比較して 1 割強増えています。

こうした背景には、「周りが誰も取っていない」が 43.9%と約半数を占め、「仕事が多忙で雰囲気として取りづらい」や「人員不足」があります。

年休と同様に、「人員不足」がトップになるのではないかとの予想に反して「周りが誰も取っていない」がトップにあがってきたことについて、自由記載からその真意を読み取ることができます。「説明なし。制度を知らなかった」「生理休暇はなくなった」「上司に取るなと言われた。有休使えと言われた」「症状がひどい人しか取らないでと言われた」など、生理休暇制度の周知もされず、休暇そのものを使えないものとしている状況がみてとれます。これでは当然ながら誰も生休を取る人はいないでしょう。また「どの程度で利用するのかわからない」との回答もありました。労基法第 68 条には「使用者は、生理日の就業が著しく困難な女性が休暇を請求したときは、そのものを生理日に就業させてはならない」と定めていますが、「著しく困難」の判断は本人に任されており、「痛み止めを飲めばなん

とかなる」「痛み止めを飲めば働ける」「婦人科治療薬で生理を止めている」というこの状況は、果たして正常な状態で働けていると言えるのでしょうか。母性保護の視点だけでなく、安全・安心な医療を提供するという視点から考えても、作業能力の低下はもちろんのこと、ミスの危険を高めることにつながるばかりか、過酷な労働によって月経に伴う症状を重くし、更なる病気を引き起こすリスクをも高めてしまいます。女性労働者が半数以上を占める医療や介護現場では、その女性が健康で働き続けることで事業が継続でき、ひいてはそれが、国民のいのちと健康を守ることにつながります。権利や制度の学習を繰り返し行うと同時に、国や事業主に対しても制度の周知と活用を徹底するよう求めていく必要があります。

４、ジェンダー平等を労働運動へ

今回の調査では、雇用形態別で比較した時に、年休を取得しなかった理由として、正規では「人員不足」がトップ、非正規では「自分や家族のための急な用事のために残しておく」がトップでした。また、年休の使い方として、「旅行・趣味」では、正規が 27.2%に対し、非正規は 18.8%と 2 割にも満たない状況となっています。一方で、「子どもの関連」や「家族および自分の病気・通院」については、正規よりも高い数値となっています。ここから見えることは、女性は家事や育児をすべきという性別役割分業が根付いていることによって、女性から経済的自立と自由と権利を奪っているのではないかということです。その裏付けとしては、全労連女性部調査（医労連抽出分）で、「妊娠・出産・子育てを理由に仕事を辞めたことがあるか」との問いに対し、「ある」が正規では 10.9%、非正規では 55.6%でした。辞めた理由としては、仕事と家庭の難しさや体力的なものがあげられていました。また、再就職する際は、非正規の道しか開かれていない現状もあると推測できました。

女性が半数以上を占める職場で、人手不足の穴埋めと経営的な厳しさから非正規に頼らざるを得ないのが現状です。それはそのまま、ジェンダー不平等が無意識に広がることにもつながります。

誰もが平等に権利が守られ、自分らしく生きられる社会、そして、誰もが誇りとやりがいを持って働き続けられる職場を実現するために、労働組合の役割はますます重要です。

５、労働者として当たり前に「権利が行使できる」人員体制を

「2 日以上の連続休暇は取れない。長期休暇を取る風潮もない。介護施設だから仕方ないという空気感。当たり前になってしまって誰も言い出せない。時代遅れの職場だ。」これは、年休取得の設問の自由記載に書かれていた言葉です。

新型コロナによって「医療崩壊・介護崩壊」が現実のものとなりました。それは度重なる医療費抑制政策の中で、慢性的な人員不足が放置され、効率最優先の医療・介護政策が推し進められたことによる結果でした。

いま現場は、労働者として当たり前に「行使できる権利」が、人手不足によって少しずつ少しずつ奪われ、コロナ前から慢性的に続いてきたその状態に馴らされてきていると感じます。仕方ないという空気感に支配され、当たり前でない状態を「当たり前」と思えるほどに変わってしまってきています。まさに慢性的な人手不足が放置され続けてきた結果

であり、国によって作り出された無権利状態だと言えます。

ただでさえ働き続けることが困難な状況の中で、「使命感」や「仕方ない」だけでは乗り越えられないことは明らかです。

医療・介護職場の大幅増員は喫緊の課題であり、22 秋からスタートした新署名「安全・安心の医療・介護実現のため、人員増と処遇改善を求める国会請願署名」に大いに取り組み、当たり前に権利が行使できる体制をも目指していきましょう。